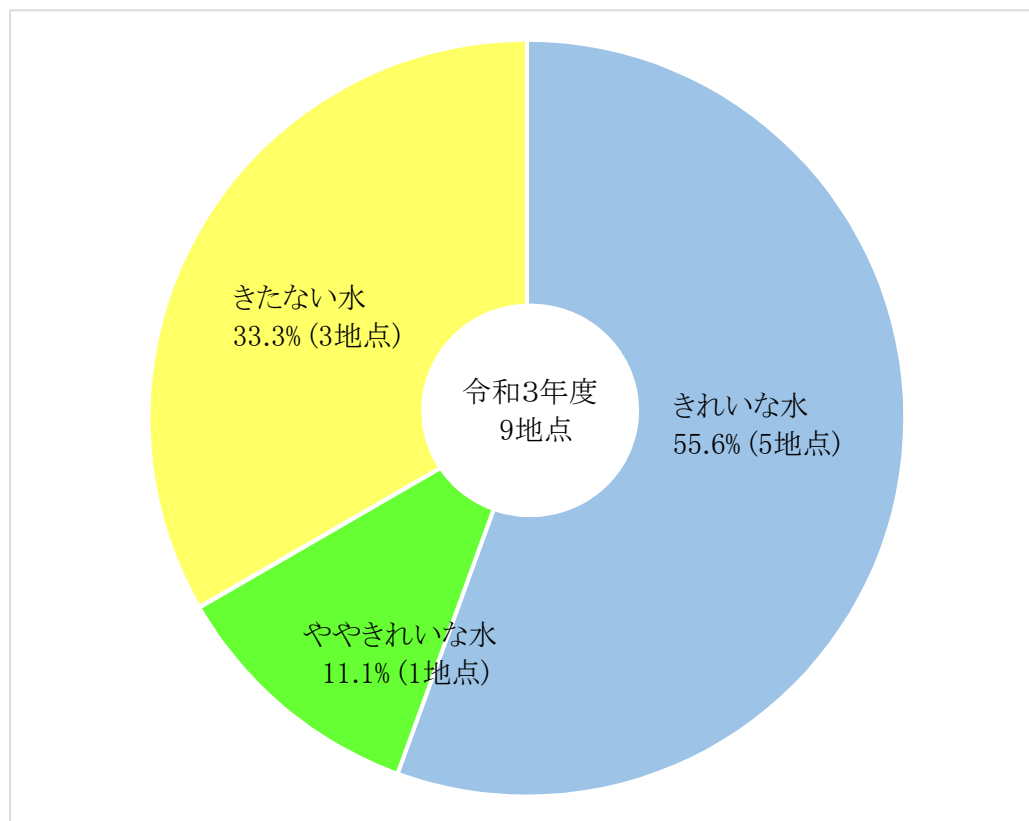


2. 調査結果

(1) 水質階級別調査地点数の割合

水質階級別調査地点数は、図1に示すとおり、水質階級が“きれいな水”と判定された地点は5地点(55.6%)、“ややきれいな水”と判定された地点は1地点(11.1%)であった。

一方、“きたない水”と判定された地点は3地点(33.3%)であった。



<図1> 水質階級別調査地点数の割合

(2) 前年度に対する水質階級の比較

令和3年度の調査地点9地点のうち全ての地点で令和2年度と同じ地点での調査であった。このうち、水質階級を比較すると、同じであったところが5地点、良くなったところが3地点、悪くなったところが1地点であった(表2)。

<表2> 前年度に対する水質階級の比較 (前年度と同一地点で実施された地点の比較)

	前年度より良くなった	前年度と変わらない	前年度より悪くなった	全地点数
調査地点数	3	5	1	9
割合 (%)	33.3	55.6	11.1	100

(3) 水生生物調査結果一覧

水生生物調査結果一覧を表3に示す。

(4) 指標生物の出現状況

指標生物の出現頻度及び最も数が多いと報告された指標生物(優占種)の出現頻度は、表 4 のとおりである。

＜表 4＞ 指標生物の出現頻度及び優占種となった指標生物の出現頻度

水質階級	指標生物	指標生物(○+●)		出現割合(%)	優占種(●)	
		頻度(回)	割合(%)		頻度(回)	割合(%)
I きれいな水	1 アミカ類	0	0.0	35.7	0	0.0
	2 ナミウズムシ	5	7.1		3	15.0
	3 カワゲラ類	3	4.3		1	5.0
	4 サワガニ	2	2.9		0	0.0
	5 ナガレトビケラ類	3	4.3		2	10.0
	6 ヒラタカゲロウ類	6	8.6		1	5.0
	7 ブユ類	1	1.4		0	0.0
	8 ヘビトンボ	1	1.4		0	0.0
	9 ヤマトビケラ類	1	1.4		0	0.0
	10 ヨコエビ類	3	4.3		1	5.0
II ややきれいな水	11 イシマキガイ ※	3	4.3	30.0	1	5.0
	12 オオシマトビケラ	0	0.0		0	0.0
	13 カワニナ類	1	1.4		1	5.0
	14 ゲンジボタル	2	2.9		0	0.0
	15 コオニヤンマ	3	4.3		0	0.0
	16 コガタシマトビケラ類	3	4.3		0	0.0
	17 ヒラタドロムシ類	6	8.6		2	10.0
	18 ヤマトシジミ ※	3	4.3		0	0.0
III きたない水	19 イソコツブムシ類 ※	1	1.4	25.7	0	0.0
	20 タニシ類	3	4.3		1	5.0
	21 ニホンドロソコエビ ※	1	1.4		1	5.0
	22 シマイシビル	5	7.1		4	20.0
	23 ミズカマキリ	4	5.7		0	0.0
	24 ミズムシ	4	5.7		2	10.0
IV きとたない水	25 アメリカザリガニ	0	0.0	8.6	0	0.0
	26 エラミズ	3	4.3		0	0.0
	27 サカマキガイ	2	2.9		0	0.0
	28 ユスリカ類	1	1.4		0	0.0
	29 チョウバエ類	0	0.0		0	0.0
合計		70	100	100	20	100

(注) ※は、海水の少し混ざっている汽水域きすいいきの生物

(注) 割合については四捨五入のため、合計が 100%にならないことがある。